

仕様書

1 件 名 令和8年度「大阪市小学校学力経年調査」実施業務委託

2 業務目的

下記のことを目的として、「大阪市小学校学力経年調査」（以下「経年調査」という）を実施する。

- ・ 児童及び保護者が、自身及び子どもの学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- ・ 各学年について統一した問題を実施することにより、児童一人一人の学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析し、学校における授業改善や児童一人一人に応じたきめ細かな指導の充実等を図り、組織的かつ継続的な学力向上施策の検証改善サイクルを確立する。
- ・ 幼小中高における学びの連続性を確保する観点から義務教育段階【小学校・義務教育学校（前期課程）】で身に付けておかなければならない力を確実に定着できるようにする。
- ・ 児童の学習理解度及び学習状況を把握し、各学校の課題や教員の指導力に応じた支援の充実を図る。

3 業務概要

(1) 調査実施日 令和8年12月1日（火）、2日（水）、3日（木）

(2) 実施場所 大阪市立全小学校 282校 義務教育学校（前期課程） 1校

(3) 調査対象 第3学年～第6学年

・ 第3学年 18,087人

・ 第4学年 18,596人

・ 第5学年 18,814人

・ 第6学年 18,980人 合計 74,477人

※ただし、転入・転出等により合計が各学年200人までの範囲において増減があった場合は、実施可能とする。

(4) 教科等 国語・算数・外国語（第5・6学年）、及び、児童質問紙、学校質問紙

4 委託期間について

契約日から令和9年3月31日（水）まで

5 調査内容

(1) 教科学力調査について

- ① 調査問題は、学習指導要領に基づき、大阪市が採択している教科書の当該学年11月までの学習内容であること。
- ② 調査問題は、前年度と違う問題を作成し、同一の問題を使用しないこと。
- ③ 調査時間は、各教科40分程度とし、1単位時間とすること。

- ④ 「基礎・基本」に関する問題と「活用」に関する問題で構成すること。「活用」に関する問題は、全体の一定割合含まれること。(割合については発注者と協議のうえ決定する)
- ⑤ 実施学年・教科において記述・論述式で解答する問題が含まれること。ただし、外国語については発注者と相談すること。記述・論述式の問題は、全体の一定割合含むこととし、特に、国語は「文章で解答する問題」「条件作文」、算数は「系統性を重視した計算問題」「数学的な表現を用いた記述問題」等が含まれること。(割合については発注者より指示する)
- ⑥ 国語及び外国語は、聞き取り問題を用意し、その音声 CD を各学校に学級数分準備できると、及び受注者がサイト(二次元コード等)を作成し、令和8年11月中旬から経年調査実施最終日まで、各学校がアクセスして音声データを取り込むことができること。なお、音声データについてはMP3形式とし、ダウンロード時においては、情報漏洩防止のためパスワード等で制限をかけること。
- ⑦ 解答方式は、記述・論述式と選択式を併用し、マークシート方式は使用しないこと。
- ⑧ 調査終了後、問題用紙は回収せず事後指導等で使用できること。
- ⑨ 各学校の学習進度に伴い、学年単位で一部の問題を未実施にすることができること。

(2) 児童質問紙調査について

- ① 調査時間は、40分程度とすること。
- ② 質問項目については、**別紙1**に基づくものとし、追加等がある場合は、発注者より別途指示する。
- ③ 児童質問紙調査の項目については、教科学力調査結果との関連性を明らかにした集計等ができること。

(3) 学校質問紙調査について

- ① 質問項目ごとの回答状況を集計できること。
- ② 校長及び各学級担任を対象とした質問紙調査内容とし、調査用紙及び回答用紙を各学校へ必要数配付すること。
- ③ 質問項目については、**別紙2**に基づくものとし、追加等がある場合は、発注者より別途指示する。
- ④ 学校質問紙調査結果は、発注者に全ての学校データを提供し、各学校には、大阪市結果とともに各学校の回答状況のみをデータで提供すること。

(4) 問題用紙等の作成について

- ① 児童に配付する問題等には「大阪市小学校学力経年調査」と記載すること。
- ② 聞き取り問題については別紙で用意すること。
- ③ 児童の状況に応じて、拡大文字版(ルビあり)、ルビ振り版、点字版等で作成すること。

(5) 調査実施マニュアルの作成・配送

経年調査の具体的な実施方法等については、下記の項目が記載された調査実施マニュアルを作成し発注者へ提出し、各学校については令和8年11月中旬までに提供すること。

- ・ 調査の日程、スケジュール
- ・ 調査実施時における具体的な作業手順
- ・ 不測の事態への対応等

6 調査結果内容

(1) 教科学力調査及び児童質問紙調査について

① 調査結果資料の送付について

ア 調査結果資料は、令和9年2月中旬までに、各学校、発注者及び大阪市総合教育センターに送付すること。

② 個人票

ア 児童に配付する資料として、教科学力調査結果について「問題内容別」「観点別」「領域別」「解答形式別」等の正答率を、大阪市の平均正答率と比較できるような図や表・グラフ等に表し到達度を確認することができること。

また、児童に配付する資料として、児童質問紙調査結果について、大阪市の結果と比較できるような図や表・グラフ等に表し、学習・生活状況を確認することができること。

イ 児童の解答・回答一覧を表記していること。

ウ ア・イにおいて、第4学年から第6学年では、経年実施した結果を標準化得点により比較できるような表・グラフ等で示すこと。

エ 学習のアドバイスや個々の課題に応じて具体的な目標を掲げて取り組めるよう肯定的なコメントを中心に表記していること。

オ 個人票の見方を表記していること。

カ 個人票は、紙媒体及びデータにて各学校に提供すること。

キ 個人の結果を表す児童の個人票には、発注者が保有する令和5年度～令和7年度のデータを活用し、経年的結果推移が表記されること。

③ 学校用資料

ア 各学校について、教科学力調査の各教科の平均正答率・平均無解答率・標準化得点及び「設問別」、「問題内容別」、「観点別」、「領域別」、「解答形式別」等の平均正答率を集計したデータ、児童質問紙調査の各項目の在籍児童全体の回答状況を集計し、学校質問紙調査の各項目の質問項目内容と回答状況を一括してデータにて提供する。数値は小数第1位まで。

イ 教科学力調査について

i 学校に配付する資料として、学校全体の結果を学年・教科・設問ごとに、大阪市平均、受注者が所有する全国平均等と比較するデータを表記していること。

ii 教科合計及び基礎・活用別、問題の内容別、領域別、観点別の平均正答率及び各教科の平均無解答率・標準化得点を表記していること。

iii 第4学年から第6学年では、学年ごと、児童ごとに前年度と本年度結果を、発注者が指定する指標でもって比較できるデータで提供すること。

iv 学級別解答状況整理表（S-P表：学級別に児童は正答率の高い順に上から下へ、問題は正答率の高い順に左から右に記載した解答状況のグラフ）を提供すること。

v 学校の結果資料を作成し、データにて各学校に提供すること。

ウ 児童質問紙調査について

i 質問ごとの各学年全体及び学校全体の回答状況を表で示すこと。また、質問項目及び解

答状況を一覧表で表すこと。

- ii 第4学年から第6学年では、発注者が保有する令和5年度～令和7年度のデータを活用し、経年実施した結果を比較できるよう表・グラフ等で示すこと。

エ 学校質問紙調査について

- i 発注者が保有するデータを活用し、学校の回答状況を平成28年度～令和7年度実施結果と比較できるように示すこと。

④ 発注者用資料

- ア 発注者に配付する資料として、全校のデータを集計し、学校用資料に準じた構成で作成していること。
- イ 大阪市全体の結果資料を紙媒体（市全体）及びエクセルデータ（市全体と各学校）で作成し、発注者に提供すること。
- ウ 児童別に過去3年間の結果と経年比較できるデータ等を発注者に提供すること。
- エ 発注者に次の資料をエクセルデータとして提供すること。なお、提供したデータについて、発注者が集計データを別途使用することを認めること。
 - ・ 各児童について、教科学力調査及び児童質問紙調査において次のデータを提供すること。
 - i ファイル単位：学年別に1ファイル
 - ii ファイル形式：カンマ区切りのCSV形式、可変長、UTF8
 - iii データの並び：下記の表の順とする。
 - iv 児童ごと、問題ごとに1レコードとし、調査を実施した全児童の全問題データをファイル内に含む。

項目名	種別	説明
年度	数値	調査年度を西暦4桁
学校コード	数値	発注者より提供
学年	数値	3～6で表示
生徒管理コード	数値	発注者より提供
組	文字列	
番号	数値	
名前	文字列	
教科名	文字列	
問題番号	数値	
問題の種別	文字列	「問題内容別」、「観点別」、「領域別」、「解答形式別」が分かるようにそれぞれのラベルを記録する。
回答	文字列	質問紙調査のみ
正誤	数値	平均正答率等の集計の対象外になる場合には、「正誤」欄に「対象外ラベル」を記録する。

※ 発注者への提供データの形式等については、発注者と協議のうえ、決定すること。

オ 大阪市全体について、教科学力調査の各教科の平均正答率・平均無解答率・標準化得点及び「設問別」、「問題内容別」、「領域別」、「観点別」、「解答形式別」等の平均正答率を集計したデータ、児童質問紙調査において、各項目の回答状況を集計したデータ、学校質問紙調査の各質問項目内容と回答状況の集計をデータにて提供すること。数値は小数第1位まで。

カ ③の全学校用資料をデータにて発注者に提供すること。

7 問題用紙等の配送及び回収について

(1) 配送について

- ① 問題用紙等はすべて令和8年11月下旬に配送を完了すること。
- ② 配送完了について、点検・報告体制を整え、配送完了の報告をすること。

(2) 回収について

- ① 解答用紙等の回収については、対象となる小学校・義務教育学校に対し、同一日にすべての回収を完了すること。
- ② 回収については、後日実施分の回収日を含め、各校2回実施すること。(回収日については発注者と協議のうえ決定する)
- ③ 回収にあたって、学年・教科等が混在しないように受注者が回収専用の封筒や箱等を用意すること。
- ④ 回収完了について、点検・報告体制を整え、各回とも回収完了の報告をすること。
- ⑤ 不測の事態への対応等については、発注者と相談すること。

8 発注者が受注者に提供するもの及びその取扱いについて

- (1) 発注者は受注者に対し、契約締結後に以下の資料を提供する。受注者は、以下の資料を結果データ作成及び経年分析等に活用し、契約終了時に、全て適正に処分するとともに、発注者に個人情報破棄完了にかかる報告書を提出すること。

ア 令和8年度調査対象児童について

項目名	種別	説明
年度	数値	調査年度を西暦4桁
学年	数値	3～6で表示
生徒管理コード	数値	発注者より提供
組	文字列	
番号	数値	
名前	文字列	

イ 平成28年度～令和7年度調査結果資料について

項目名	種別	説明
年度	数値	調査年度を西暦4桁
学年	数値	3～6で表示
生徒管理コード	数値	発注者より提供
組	文字列	

番号	数値	
名前	文字列	
教科名	文字列	
問題番号	数値	
問題の種別	文字列	「問題内容別」、「観点別」、「領域別」、「解答形式別」が分かるようにそれぞれのラベルを記録する。
回答	文字列	質問紙調査のみ
正誤	数値	平均正答率等の集計の対象外になる場合には、「正誤」欄に「対象外ラベル」を記録する。

※ その他、発注者が保有する、平成 28 年度～令和 7 年度の結果データについては、別途提供する。

9 遵守事項

- (1) 受注者は、契約締結後速やかに業務責任者を定め、発注者に届け出ること。また、業務責任者を変更した場合も同様とすること。
- (2) 業務内容について、業務責任者又はそれに準ずる者が、事前に発注者と問題等の内容について打合せを行うこと。
- (3) 緊急時の連絡・対応のための体制を予め発注者へ報告するとともに、緊急時においては速やかに対応のうえ、その対応状況と結果を発注者に報告すること。
- (4) 発注者が業務内容の改善を指示した場合には、業務内容の改善対策報告書を発注者に提出し、速やかに改善すること。
- (5) 業務責任者及び本業務に従事する者の業務において、電子メールを使用する場合は、発注者が認めた者以外への送信及び発注者が認めた方法以外による送信を行わないこと。
- (6) 本業務に従事する者又は従事した者は、大阪市個人情報の保護に関する法律の施行等に関する条例に基づき、本業務に関して知りえた情報を他に漏らし、又は不当な目的に使用してはならない。なお、契約期間終了後も同様とすること。
- (7) 学校別及び個人データ等は、すべて本業務終了とともに廃棄処分とすること。

10 再委託について

- (1) 業務委託契約書（成果物型）第 16 条第 1 項に規定する「主たる部分」とは次の各号に掲げるものをいい、受注者はこれを再委託することはできない。
 - ① 委託業務における総合的企画、業務遂行管理、業務の手法の決定及び技術的判断等
 - ② 教科学力調査、児童質問紙調査及び学校質問紙調査の作成、調査結果資料の作成
- (2) 受注者は、コピー、ワープロ、印刷、製本、トレース、資料整理などの簡易な業務の再委託にあたっては、発注者の承諾を必要としない。
- (3) 受注者は、第 1 項及び第 2 項に規定する業務以外の再委託にあたっては、書面により発注者の承諾を得なければならない。なお、元請の契約金額が 1,000 万円を超え契約の一部を再委託しているものについては、再委託相手先、再委託内容、再委託金額を公表する。

- (4) 地方自治法施行令第 167 条の 2 第 1 項第 2 号の規定に基づき、契約の性質又は目的が競争入札に適さないとして、随意契約により契約を締結した委託業務においては、発注者は、前項に規定する承諾の申請があったときは、原則として業務委託料の 3 分の 1 以内で申請がなされた場合に限り、承諾を行うものとする。ただし、業務の性質上、これを超えることがやむを得ないと発注者が認めたとき、又は、コンペ方式若しくはプロポーザル方式で受注者を選定したときは、この限りではない。
- (5) 受注者は、業務を再委託及び再々委託等（以下「再委託等」という。）に付する場合、書面により再委託等の相手方との契約関係を明確にしておくとともに、再委託等の相手方に対して適切な指導、管理の下に業務を実施しなければならない。

なお、再委託等の相手方は、大阪市競争入札参加停止措置要綱に基づく停止措置期間中の者、又は大阪市契約関係暴力団排除措置要綱に基づく入札等除外措置を受けている者であってはならない。

また、大阪市契約関係暴力団排除措置要綱第 12 条第 3 項に基づき、再委託等の相手方が暴力団員又は暴力団密接関係者でない旨の誓約書を業務委託契約書（成果物型）第 16 条第 2 項及び第 16 条の 2 第 2 項に規定する書面とあわせて発注者に提出しなければならない。

11 その他

- (1) 契約書及び仕様書に定めのないもの、その他業務の実施について疑義が生じた場合については、その都度、大阪市及び受注者が双方協議のうえ定める。

別紙 1

学習・生活状況等に関する調査項目（第3学年～第6学年児童対象）

- (1) 朝食を毎日食べていますか。
- (2) 毎日、同じくらいの時刻にねて、同じくらいの時刻に起きていますか。
- (3) ふだん（月～金曜日）、どれくらいの時刻にねていますか。
- (4) ふだん（月～金曜日）、1日当たり、どれくらいのすいみん時間ですか。
- (5) ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしますか（インターネットを使わないゲーム）。
- (6) ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、インターネットを使って、動画を見たり、ゲームやSNSなどを行いますか。
- (7) 学校が休みの日（土・日曜日など）、1日当たりどれくらいの時間、インターネットを使って、動画を見たり、ゲームやSNSなどを行いますか。
- (8) ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどを勉強のために使っていますか（学校や家、習い事などもすべてふくむ）。
- (9) 学校の授業時間以外に、ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習じゅくで勉強している時間や家庭教師に教わっている時間もふくむ）。
- (10) 学校の授業時間以外に、どのような形で学習（英語の学習もふくむ）をしていますか。（複数回答あり）
- (11) 家やいきいき活動、放課後学習などで、学校の宿題をしていますか。
- (12) 学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習（予習・復習など）をしていますか。
- (13) 読書は好きですか。
- (14) 学校の授業時間以外に、ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除く）。
- (15) 学校に行くのは楽しいと思いますか。
- (16) 学校のきまりを守っていますか。
- (17) 去年と比べ、自分に成長したところはあると思いますか。
- (18) 自分には、よいところがあると思いますか。
- (19) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
- (20) 将来の夢や目標をもっていますか。
- (21) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- (22) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- (23) 人が困っているときは、進んで助けていますか。
- (24) 困りごとや不安がるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。
- (25) 自分とちがう考えの人と話しているとき、その人がどうしてそのように考えているかを分かろうとしていますか。
- (26) 友達関係に満足していますか。
- (27) ふだんの生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。
- (28) 授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されたり、自分で目標を立てたりしていたと思いますか。
- (29) 授業の中で学習内容をふり返る活動をよく行っていたと思いますか。
- (30) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。
- (31) 授業で学んだことを、ふだんの生活に生かすようにしていたと思いますか。
- (32) 授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。
- (33) 授業などで、教科書を読むことは難しいと思いますか。
- (34) 先生は、授業やテストでまちがえたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。
- (35) 今までやったことのない課題にも喜んで取り組みますか。
- (36) 読んでいて分からなくなったときは、もう一度読み直していますか。
- (37) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。

- (38) 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていますか。
- (39) 言葉の意味が分からず、各教科の学習が分りにくいときがありますか。
- (40) 授業で、パソコンをどれくらい使っていますか。
- (41) 宿題や連絡帳など、授業以外の場面でパソコンをどれくらい使っていますか。
- (42) パソコンを活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。
- (43) パソコンを活用して、自分の考えや意見を、友達と共有したり比べたりしていますか。
- (44) パソコンを活用して、単に調べるだけでなく、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。
- (45) インターネットや生成AI、SNS等を活用するときに、情報の確かさを確認したり悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意したりしていますか。
- (46) 国語の勉強は好きですか。
- (47) 国語の授業の内容はよく分かりますか。
- (48) 社会の勉強は好きですか。
- (49) 社会の授業の内容はよく分かりますか。
- (50) 算数の勉強は好きですか。
- (51) 算数の授業の内容はよく分かりますか。
- (52) 理科の勉強は好きですか。
- (53) 理科の授業の内容はよく分かりますか。
- (54) 理科の授業で観察や実験を行うことは好きですか。
- (55) 理科の授業で自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。
- (56) 外国語（英語）の勉強は好きですか。
- (57) 外国語（英語）の授業の内容はよく分かりますか。
- (58) 外国語（英語）の授業で学習したことを使っているいろいろな人と話をしたいと思いませんか。
- (59) 運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。
- (60) 学級や学校の中で、いろいろな国の文化や言葉のちがいを出し合い、困ったことや問題を解決するなどして、友達同士のつながりを深めることができましたか。

別紙 2

学校質問紙調査項目（管理職対象）

- (1) 校長経営戦略支援予算により、実施した取組の年度目標を達成しましたか。
- (2) 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか。
- (3) 認知したいじめについて、解消に向けて対応していますか。
- (4) 児童虐待について、学校で把握した個々のケースに対し、必要な対応をしていますか。
- (5) 障がいのある児童一人一人の教育的ニーズに応じた多様な学びの充実を図りましたか。
- (6) 中学進学に不安を抱く児童が減少したと思いますか。
- (7) 小中連携について、取り組んだものはどれですか。（複数回答可）
- (8) 自校の学力の課題に応じた取組ができましたか。
- (9) 研究授業を実施した教員の授業改善が行われ、学習指導力が向上したと思いますか。
- (10) 教員の指導力向上のために、「w a k u × 2 . c o m - b e e」を活用しましたか。
- (11) 学習教材データ配信の活用は、児童の学習への意欲の向上や学力の向上等に効果が見られましたか。
- (12) 学力向上支援サポーターの配置は、児童の学習への意欲の向上や学力の向上等に効果が見られましたか。
- (13) 学力向上支援サポーターの活用場面は、どのような場面でしたか。（複数回答可）
- (14) 学力向上支援サポーターの活用教科はどれですか。（複数回答可）
- (15) 「大阪市小学校学力経年調査」結果を学力向上に向け、どのように活用しますか。（複数回答可）
- (16) 学校図書館の活用を含めた読書活動推進のための取組を、学校として組織的に行っていますか。
- (17) 体力向上について、「運営に関する計画」において設定した指標の達成状況はどうでしたか。
- (18) 教科等における食に関する指導の充実のための取組をしていますか。
- (19) 住んでいる地域（地名の由来等）や大阪の歴史や現状、伝統や文化について授業や学校行事等で学ぶ機会を設けましたか。
- (20) P T A や地域の人が学校の諸活動（学校の美化等）にボランティアとして参加してくれますか。
- (21) 1 週間のうち、「小学校低学年からの英語教育（短時間学習）」の実施回数は、何回ですか。
- (22) 「小学校低学年からの英語教育（短時間学習）」の 1 回あたりの実施時間数は、何分ですか。
- (23) 授業改善に向けて、I C T 活用を積極的に推進することができるよう、学校として組織的に取り組んでいますか。

別紙3

学校質問紙調査項目（第3学年～第6学年担当対象）

- (1) 調査対象学級の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。
- (2) 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守る等）の維持を徹底しましたか。
- (3) 毎日、児童の宿題の点検を行いましたか。
- (4) 学校図書館やその蔵書を活用した授業（図書的时间を含む）を計画的に行いましたか。
- (5) 授業の中で計画的に、目標（めあて・ねらい）を調査対象学級の児童に示したり、児童に考えさせる活動を取り入れたりしましたか。
- (6) 授業の中で学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。
- (7) 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか。
- (8) 板書はわかりやすく工夫していましたか。
- (9) 調査対象学級の児童の学ぶ意欲を高める教材・教具の工夫をしていましたか。
- (10) 調査対象学級の児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。
- (11) 学級やグループで話し合う活動を授業等で行いましたか。
- (12) 調査対象学級の児童は、学級やグループでの話し合い等の活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。
- (13) 調査対象学級の児童自らが学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する等の学習活動を実践しましたか。
- (14) 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか。
- (15) 調査対象学級の児童に対する国語科の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。
- (16) 調査対象学級の児童に対する国語科の指導として、書く習慣を身に付ける授業を行いましたか。
- (17) 調査対象学級の児童に対する社会科の指導として、体験的な活動を重視して社会生活を理解するとともに、社会に参画する態度を育てる授業を行いましたか。
- (18) 調査対象学級の児童に対する社会科の指導として、児童が問題を発見し、見通しをもって問題解決する授業を行いましたか。
- (19) 調査対象学級の児童に対する社会科の指導として、考えたことを自分の言葉でまとめ、伝え合うことによりお互いの考えを深めていく指導を行いましたか。
- (20) 調査対象学級の児童に対する算数科の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。
- (21) 調査対象学級の児童に対する理科の授業において、理科室や屋外で観察・実験する指導をどのくらい行いましたか。
- (22) 調査対象学級の児童に対する理科の指導として、児童自ら考えた仮説をもとに観察・実験の計画を立てる授業を行いましたか。
- (23) 調査対象学級の児童に対する外国語（活動）の授業において、コミュニケーションの目的・場面・状況を明確に設定し、必然性のある言語活動を行っていますか。
- (24) 調査対象学級の児童に対する外国語（活動）の授業において、発問や指示等で、どの程度英語（クラスルームイングリッシュ）を使っていますか。
- (25) 学級・学年全体の学力傾向や課題について、学年等の教職員の間で共有していますか。
- (26) 学級運営の状況や課題を学年等の教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいますか。
- (27) 校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させましたか。
- (28) 調査対象学級の児童の指導に、学習教材データ配信を活用した教科はどれですか。（複数回答可）
- (29) 調査対象学級の児童に対して、学習教材データ配信を活用した場面はいつですか。（複数回答可）
- (30) 授業で学習者用端末をどの程度使用させましたか。
- (31) 宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度活用しましたか。
- (32) 児童が学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていく授業を行いましたか。

- (33) 児童が学習者用端末を活用して、単に調べるだけでなく、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する授業を行いました。
- (35) 児童がインターネットや生成A I、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認させたり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意させたりしていますか。
- (36) 児童の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、大型提示装置などを活用して資料などを効果的に提示していますか。
- (37) 児童に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、大型提示装置などを活用して児童の意見などを効果的に提示していますか。
- (38) 学習活動に必要な、学習者用端末などの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童が身に付けることができるように指導していますか。
- (39) 児童が学習者用端末やインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導していますか。
- (40) 調査対象学級の児童にとって、教科書を読むことは難しいと思いますか。
- (41) 調査対象学級の児童は、言葉の意味が分から各教科等の学習が分かりにくい時があると思いますか。
- (42) 調査対象学級の児童に対する指導や支援を通して児童の成長を感じることがありますか。